

教育委員会だより

令和8年6月24日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

新たな創造 ～わたしの主張 2026 多治見市大会～

6月20日(土)、バロー文化ホールにて『わたしの主張 2026 多治見市大会』が開催されました。大会はボランティアの中学生が表舞台で運営し、その陰には青少年まちづくり推進員の皆さんのお力添えがありました。また、陶都・笠原中学校吹奏楽クラブも大会に花を添えてくれました。そんな多くの人の力のおかげで大会が素晴らしいものになり、心より感謝申し上げます。

26名の主張は説得力があり、聞き手を魅了するものでした。これも、多くの地区で校区别大会を開催している多治見ならではの質の高さだと感じます。それにもまして、学校や家庭での指導や援助が感じられる26人の語りでした。子どもたちのために力を尽くしてくださり、こちらも感謝しかありません。

テーマは様々でした。日常生活から世界規模の問題まで実に幅広いものでした。それでも、主張の中には共通点があるように感じました。それは、よりよい自分や仲間、よりよい社会を「創造したい」という主張点です。自分や仲間、社会にも課題はたくさんあります。その課題に目を向け、どうすれば課題が解決できるのかを考え、具体的な行動様式について主張がなされていました。ある者は自らの力を信じて前に進もうとする「自立」のような主張。ある者は周りの人と力を合わせて大きなものを生み出そうとする「共生」のような主張。そして、一人一人が「挑戦」をしようとしています。その結果として「新たな創造」があります。

私たち大人も「よりよい世の中の創造」について、児童生徒の主張から学ぶべきことがたくさんあると再認識させられた一日となりました。

【最優秀賞】小学生の部 養正小6年 興柊ゆづなさん『言葉の力』

中学生の部 小泉中3年 若尾 湊音さん『本当の障害はどこにあるのか』

中学生の部で最優秀賞の若尾さんは県大会への出場を目指し、7月に行われる東濃地区出場者代表選考委員会(原稿と動画による審査)に駒を進めます。



海外から、ふるさと「多治見」へ

～土曜学習「わがまち大好き多治見講座」～

令和8年度も土曜学習がスタートしました。これまで「虎渓山永保寺」と「下街道」の体験が開催されました。虎渓山永保寺では、30名の定員を超えた応募があり、抽選にて参加者を決めるほどでした。大人気ぶりは今年も健在です。

私も参加する中で、2回とも参加したあるお子さんに目がとまりました。彼は、外国語を母語とするお子さんで、現在、日本語を習得しつつ、市内の学校で懸命に学んでいるお子さんでした。

そんな彼も他の子と同様に、永保寺で座禅体験をしました。始めはうまくできませんでしたが、お寺の方の話をよく聞き、最後には正しい形で足を組めるようになっていました。下街道では、ガイドさんと楽しそうにツアーに出かけていきました。「行ってらっしゃい」と声をかけると満面の笑みを返してくれました。

彼が望んで参加したのか、おうちの方が背中を押してくださったのかはわかりません。しかし、言葉の壁にひるむことなく、それどころか生き生きと楽しみながら「多治見」を知ろうとする姿に心が打たれました。

土曜学習の目的は「多治見への愛着の醸成」です。土曜学習を通して、多治見で学ぶすべての子どもたちが、ふるさと多治見への愛着を高めてほしいと強く願いました。

彼がいつか「ぼくのふるさととは多治見です」と胸を張って語ってくれたら、土曜学習がそんな機会になったのなら、それほどうれしいことはありません。



市史編纂開始 ～多治見市制100周年に向けて～

市制100周年での完成を目指して、多治見市史の編纂委員会と編集部会がスタートしました。現在の市史は「広辞苑」ほどの厚みのある書籍です。手が伸ばしにくいものです。今回の編纂では、子供も大人も手に取りやすいものを目指して様々な工夫を凝らしています。時代に即してデジタルも活用しようと計画されています。足掛け15年の大企画です。どんな市史になるのか、完成を楽しみにしていただきたいと思います。そして、ぜひ手に取っていただきたいと思います！